

池中だより

【教育目標】

- すすんで学び実践する人
- 感謝する心を持ち責任を果たす人
- 心身ともに健康な人

1月号

平成26年1月8日

豊島区立池袋中学校

人間万事塞翁が馬

校長 堀 利 光

新しい年が明けました。年の初めにあたり「今年は～をがんばろう」「今年も～を続けよう」「今年こそ～に挑戦しよう」と決意や覚悟を新たにしたことでしょう。

本校の教育目標は、いつも池中だよりのタイトルの下に掲げているのは周知の通りかと思いますが、良い機会なので繰り返します。

- すすんで学び実践する人
- 感謝する心を持ち責任を果たす人
- 心身ともに健康な人

一つも欠かすことの出来ないものです。そして、こういう人になってほしいという願いが込められています。この目標を達成するために毎日の授業を始めとする様々な教育活動を行っているのです。

さて、今年の干支である「午」は、十二支の七番目にあたり、方角は南。時刻は午前11時から午後1時までの間を指し、今でも一般に使われている「正午」「午前」「午後」は、この午に基づいているそうです。

「午」にちなんだ言葉もたくさんあります。表題の「人間万事塞翁が馬」の話は、中国の古い書物「淮南子（えなんじ）」に書かれています。

昔、北方の塞（砦 とりで）近くに占いの得意な老人が住んでいた。ある日、その老人（翁）の飼っていた馬が北の胡の国の方角に逃げていってしまった。この辺の地方の馬は良い馬が多く、高く売れるので近所の人々が気の毒がって老人を慰めに行くと、老人は「これは幸いになるだろう」と言った。やがて、逃げた馬は胡の立派な馬を連れて戻ってきた。そこで、人々がお祝いに行くと、今度は「これは災いになるだろう」と言った。

しばらくすると、老人の息子が胡の馬に乗って遊んでいたら、落馬して足の骨を折ってしまった。又、近所の人々がかわいそうに思って慰めに行くと、老人は「これは幸いになるだろう」と言った。一年後、胡の国の軍が攻め込んできて戦争となり、若者たちはほとんど戦死したが、足を折った老人の息子は戦いに行かずに済んだため無事だった。という故事です。

このことから、人生における「幸（福・吉）」「不幸（禍・凶）」は予測しがたいということ。幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ転じるかわからないのだから安易に喜んだり悲しむべきではないというたとえになります。

現代に生きる私たちも一日一日を大切にしてお過ごししていきたいものです。

三学期も、1年生のスキー教室、区の連合作品展、吹奏楽部のアンサンブルコンテスト、学習発表会（展示の部）、そして、3年生の都立校推薦入試・私立校入試・都立校一般入試等の進路決定に向けた一連の日程が目白押しです。そして迎える卒業式・修了式まで自分を見失うことなく、しっかりと地に足が着いた落ち着いた学校生活を送りましょう。

※「馬齢を重ねる」とあきれられたり、「馬子にも衣装」と冷やかされることなく、人の話は「馬耳東風」と聞き逃さぬようにしたいもの。おっと「馬脚をあらわす」前に学校だより1月号はこれまで。

